

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇「自分で決めたり、決め直したりする場を大切に授業」を行うことによって、子どもが主体的に学習に取り組む態度や教科的な見方・考え方を養うことができた。</p> <p>◇家庭学習の取組では、手本となる取組を紹介することを通して、よりよい家庭学習になるように意欲を高めることができた。</p>
	<p>◇授業の「決め直す場」では、子どもが必要感をもちにくい学習内容や問いになってしまうことがあり、必要感をもって決め直すことができるような問いを設定する必要がある。</p> <p>◇家庭学習の取組では、子どもが自分で取り組む内容を選択できるようにする力が不十分であり、選択の場を設定する必要がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標「相互承認に関連する項目」における肯定的回答の割合は、札幌市の平均よりやや高い結果が出ている。これは、日常授業の重点の一つに「仲間からの価値付け」を位置付けていること、行事や教科学習時に相互評価の場を設定していることが寄与していると考えられる。引き続き、他者から承認を得られる場をつくることが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

AAR サイクルの中で 自己決定する過程で高まる “学びに向かう力”

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 日常授業交流や提案授業の実施</p> <p>→<u>学びの見通しをもつきっかけ</u>となる「問い」</p> <p>→<u>相互理解を生み出す</u>「仲間からの価値付け」</p> <p>→<u>振り返ったことを次に生かす</u>「自分からの価値付け」</p> <p>(2) 家庭学習の推進</p> <p>→<u>学びの見通しをもつ</u>「学習目標」の設定</p> <p>→<u>自らの学び方を振り返る</u>きっかけを与える教師の関わり</p> <p>→<u>相互理解を生み出す</u>「すてきな家庭学習紹介」</p>	<p>①相手意識を涵養するあいさつ活動</p> <p>→<u>委員会活動から発信する</u>「こんな学校にしたい」</p> <p>→<u>リーダーから広がる活動の輪</u></p> <p>→他学年との関わりから生まれる「あこがれ」「さすが」</p> <p>②よりよい学級にするための学級活動の充実</p> <p>→<u>考えを発信する主体性を育む</u>係活動の工夫</p> <p>→月目標の設定と発達に合わせた具体的取組</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇Google ClassroomやGoogle Workspace、まなびポケットなど、教師が適当なものを選択し、学習内容や発達段階に合わせて活用する。そのための校内研修の一層の充実を図る。また、児童自身が学習を深めるために、自分に合ったものを選択して使うことができるように指導する。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

